

業 務 速 報

NO. 832
2012. 10. 18
J R 東海労働組合
発行 淵上 利和
編集 本橋 浩司

リニア中央新幹線建設に関する業務委員会での質問に対する回答 山梨実験線延伸工事費はリニア建設費には含まない！ ウラン鉱床回避でルートから外れれば別途建設費発生！

10月10日に開催された「リニア中央新幹線建設に関する申し入れ」（『申第10号』）と「リニア中央新幹線建設に関する追加申し入れ」（『申第14号』）についての業務委員会で、本部から会社に対する質問事項について、10月16日に会社幹事から回答がありました。

会社は10月10日にリニア中央新幹線建設に関わる申し入れについて初めて業務委員会を開催しましたが、今回の質問への回答のように答える部分と、曖昧にする部分、または「非開示」として全く明らかにしない部分を使い分けています。本部は「建設ありき」でリニア中央新幹線建設を強引に進める会社の姿勢を厳しく追及するため、今後も労使交渉を展開します。

以下、会社回答と主な議論内容です。

1. 大規模改修の費用がまだ積み立てできていないが、見込みを明らかにすること。

【回答】

東海道新幹線の大規模改修費用は引当金として積み立てている途中であり、総額5,000億円を予定している。平成14年10月から平成29年9月の15年間に均等に積み立てる。年間333億円を営業費に計上していく。

2. 山梨実験線の延長工事費用は東京～大阪の建設費用は9兆300億円に含まれているのか。また延伸工事の投資額はどのくらいか。

【回答】

山梨リニア実験線延伸・更新工事は平成19年1月に国土交通大臣から、山梨実験線建設計画の変更承認を受けて進めているものであり、平成23年5月に決定された中央新幹線の整備計画に記載されている建設に要する費用の概算9兆300億円には含まれない。

また、実験線の延伸・更新工事への投資額は3,550億円の予定であり、平成23年度末までに1,688億円を支出している。

3. 建設ルートにウラン鉱床があり迂回する場合は建設費が増加するのではないか。

【回答】

建設ルートにウラン鉱床があった場合は、建設ルートの3kmの幅以内で迂回すれば建設費用に収まる。建設ルートから大きく外れるようであれば、別途建設費が発生する。

主な議論内容

組合：山梨実験線は9兆300億円に含まれないということで良いか。

会社：そうである。山梨実験線建設計画は中央新幹線整備計画とは別になるということである。

組合：延長工事部分も含まれないということで良いか。

会社：そうである。

組合：リニア建設にかかる費用は9兆300億円プラス3,550億円となるのか。

会社：3,550億円には延伸だけでなく更新にかかる部分も含まれる。営業線にどれだけ関係するかは分からない。

組合：更新というのは、今までの実験線設備の更新費用が入っているということか。

会社：そうである。

組合：ウラン鉱床を回避するときの建設費はどうなるのか。

会社：ウラン鉱床を回避する場合でも予定ルートは3km幅で決めてあるので、この中で動く場合は9兆300億円に含まれることになる。

組合：ルートから大きく外れる場合はどうなるのか。

会社：別途計算することになると思う。

以 上